

湖国の感動 未来へつなぐ
わたSHIGA輝く
国スポ・障スポ 2025
試合結果速報

No. 21
 バレーボール

種別	少年女子	会場	守山市民体育館
令和	7年9月30日	火曜日	第3日目
準決勝		Eコート	第4試合

◎試合結果

勝利チーム	{		}	
岡山県 3	25 - 21		21	1 宮城県
	17 - 25		25	
	25 - 18		18	
	25 - 22		22	
	-			

設定時刻(プロ記載時刻) 14時50分	開始時刻 15時00分	終了時刻 16時35分
-------------------------------	-----------------------	-----------------------

【審判員】

主審: 清水 弘也 副審: 安田 明広

記録員: 上原 徹 A・S: 小林 奏大 A・S: _____

【次の試合】 (記入無き場合は上記試合が最終)

設定時刻(プロ記載時刻) 時 分	開始予定時刻 時 分	組合せ VS
--------------------------	--------------------	-----------

No.	送信時間	送信者	競技(副)委員長	記録報道主任	記録者
7	17:10	高田	井口	高田	什谷

21 17:23 時田

受信時間	記録本部

【様式 9-2】

湖国の感動 未来へつなぐ

わたSHIGA輝く

国スポ・障スポ 2025

戦 評 用 紙

審判副委員長

佐川 義明

種 別 少年女子

会 場 守山市民体育館

令和 7 年 9 月 30 日 火 曜 日 第 3 日目

準決勝

E コート

第 4 試合

◎試合結果

勝利チーム

岡山県 3

25	-	21
17	-	25
25	-	18
25	-	22
	-	

1 宮城県

No. 33
バレーボール

【審判員】

主 審： 清水 弘也 副 審： 安田 明広

記録員： 上原 徹 A・S： 小林 奏大 A・S：

【戦 評】

記載者： 佐川義明

セット序盤から一進一退の攻防が続く。中盤で岡山5番吉本のブロックが続き、流れを掴む。対して宮城も9番澁谷の攻撃で点数をとるが、岡山が25-21で先取した。第2セット、宮城は5番山崎の効果的なサーブでラリーを優位に進め、7番鈴木、10番工藤の攻撃で得点を重ね、大きくリードをとる。岡山も2番牛田の攻撃で反撃するが、序盤の点差が埋まらず、宮城が25-17で奪取した。続く第3セット、岡山は2番牛田の攻撃を中心にリードをとる。宮城も2番中川のクイックを中心に攻撃を展開するが、岡山6番加藤のトスワークが冴え、連続得点を重ね25-18で取得した。第4セット、後がない宮城は粘り強いレシーブから流れをつかみ、優勢にゲームを進めていく。対する岡山も3番石田の攻撃で流れを引き戻し、2番牛田のブロックで一気にリードを奪う。マッチポイントで7番打田のサーブが決まり、3-1で岡山県が勝利した。

わたSHIGA輝く

国スポ・障スポ 2025

試合結果速報

No. 22
バレーボール

種別	少年女子	会場	守山市民体育館
令和	7年9月30日	火曜日	第3日目
準決勝		F	コート 第4試合

◎試合結果

勝利チーム

静岡県	3
-----	---

14	-	25
16	-	25
26	-	24
25	-	21
15	-	13

2	大分県
---	-----

設定時刻(プロ記載時刻)
14 時 50 分

開始時刻
15 時 00 分

終了時刻
16 時 53 分

【審判員】

主審: 澤 賢治 副審: 吉山 弘道

記録員: 青木 俊平 A・S: 北川 祐生 A・S: _____

【次の試合】 (記入無き場合は上記試合が最終)

設定時刻(プロ記載時刻) 時 分	開始予定時刻 時 分	組合せ VS
--------------------------	--------------------	-----------

No.	送信時間	送信者	競技(副)委員長	記録報道主任	記録者
8	17:20	高田	井口	高田	仲谷

22 17:24 時田

受信時間	記録本部

【様式 9-2】

湖国の感動 未来へつなぐ
わたSHIGA輝く
国スポ・障スポ 2025
戦 評 用 紙

審判副委員長

佐川 義明

種 別	少年女子	会 場	守山市民体育館
令和	7 年 9 月 30 日	火 曜 日	第 3 日目
準決勝		F コート	第 4 試合

◎試合結果

勝利チーム 静岡県 3		14	—	25	2	大分県
		16	—	25		
		26	—	24		
		25	—	21		
		15	—	13		

No. 34
バレーボール

【審判員】

主 審： 澤 賢 治 副 審： 吉 山 弘 道

記録員： 青 木 俊 平 A・S： 北 川 祐 生 A・S：

【戦 評】

記載者： 上野 暁子

今年度のインターハイ準決勝でも対戦しており、雪辱を果たしたい大分県。第1セット序盤、大分3番忠願寺が強打軟打と多彩な攻撃で、一気に6-1とリードする。中盤も攻撃の勢いが止まることなく1番大石、2番藤崎が次々とスパイクを決め、1セットを先取した。第2セットも同様、大分の勢いが止まらず25-16と圧倒する。第3セット中盤までは一進一退の攻防が続いたが、大分の速い攻撃に対応した静岡が26-24で取り返し、セットカウント2-1とした。第4セット静岡2番鈴木のプロード攻撃により、3セット目の勢いそのままに序盤から得点を重ね、25-21で連取した。第5セット序盤は大分がリズムを取り戻し、得点を重ねたが、静岡が粘り強く追撃し、互角の戦いを見せる。終盤、セッターの怪我により交代し、選手一丸となって逆転し、15-13で5セット目を奪取し、セットカウント3-2で静岡が勝利した。